

# 川口の新進アーティスト 2人 バーサス × 洋館

## 歴史ある重厚な洋館と 若手作家の勢いある表現がはじめて対峙する

川口グリーンセンターに昭和 42 年に鋳物技術などを取り入れ建築された洋館（大集会堂）に、日本画（鉱物や鉄粉を使って体感した自然を質感そのままに描く大型自立作品）と彫刻（鉄を流動的で水のように循環している素材と捉え、植物のフォルムや水の動きを源に立体を構成）の融合という形で、鋳物の町～川口～らしい空間を表現します。



### 佐藤 裕一郎

Yuichirou Satou



巨大な画面を前に立つ自分を想像する。  
風景が見える。故郷の匂いや風、熱を感じる。  
素材を手に取り強靱な物質のエネルギーを夢中で画面に解放する。  
意図しない線が走り、重なり合い、広がっていく滲み。  
見慣れ親しんだ故郷の風景とは異なる、けれど確かに息づかいを同じくする風景の現れに自身の観念や顔を見る。  
作品の構造は私自身であり、時に想像の世界を超えていくそれを追いかけて、画面に向かっていきます。

#### プロフィール

- ◆略歴  
1979年 山形県生まれ。  
東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術文化専攻日本画研究領域修了
- ◆受賞  
2002年 臥龍桜日本画大賞展優秀賞  
2005年 トリエンナーレ豊橋「星野真吾賞」優秀賞  
2009年 川口市芸術奨励賞など受賞多数
- ◆パブリックコレクション  
作品収蔵先に岐阜県宮村、豊橋美術博物館などがある
- ◆川口市在住

### 高田 純嗣

Junji Takada



ガスバーナーで鉄を溶かす。単調な行為の連続を作品の要素としています。  
川口市の鋳物屋に勤めて鉄が 1200℃の高温になり溶けて流れてゆく様子を見たとき、その熱量と肉眼では眩しすぎるほどの光に瞬間的な美しさがあると強く感じました。鉄素材の性質は、形を失ってまた別の形に変化していくような水の循環性によく似ていると思います。  
わたしは、そういった性質を観察し水の動きを模した形を追いながら素材と形との関係を考えて制作しています。

#### プロフィール

- ◆略歴  
1980 北海道生まれ  
2007 東北芸術工科大学 大学院 芸術工学研究科 芸術文化専攻 彫刻領域修了  
2014 アブリュス芝園中スタジオ 主宰
- ◆受賞  
2006 彫刻現代美術館奨励賞  
2014 U35 Japan Award 賞  
2015 川口市美術展 市長賞
- ◆パブリックコレクション  
ホテルメトロポリタン山形、田中茶道教室、JTB 銀座ロイヤルロード、他
- ◆川口市在住



川口市立グリーンセンター

埼玉県川口市新井宿700 TEL048-281-2319  
<http://greencenter.1110city.com/>